

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

2023年12月11日	
所属部局・学年	野生動物研究センター・修士1年
氏名	鈴木百夏

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)	
熊本サルクチュアリ	
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)	
動物福祉実習	
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)	
2023年11月24日 ~ 2023年11月27日 (4日間)	
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)	
京大 WRC、平田聡博士/京大 WRC 熊本サルクチュアリの皆様	
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)	
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。	
<p>この実習では、チンパンジーとボノボを飼育している熊本サルクチュアリで、彼らの飼育現場を見学・体験し、飼育下動物のエンリッチメントについて学んだ。</p> <p>この実習を受ける前まで、「エンリッチメント」や「動物福祉」といった言葉の意味や、それらが世界中の動物園や飼育施設で意識され始めていることは知っていた。しかし、実際に飼育現場を見たのは今回が初めてであった。今回はチンパンジーとボノボを対象としたが、彼らを飼育することは種の特徴によって、難しそうだと感じた。しかし、そのための工夫をたくさん見付けられた。</p> <p>例えば、チンパンジーの朝の採餌では、餌を様々な場所に隠して探す行動を促したり、ボノボに様々な食べ物を袋や筒で隠した「福袋」を隠して動物の退屈を改善したりすることを体験した。飼育されているケージは、彼らが激しく動き回れるほど広く、森の中のような環境であった。飼育する上で必要な人との関係性を持ちながらも、野生下のような環境で飼育していた。木の棒などの道具を使う必要がある仕掛けなどもあった。</p> <p>他にも、ケージの鍵をとられないように隠したり、ケージの出入り口を操作できるボタンの横に衝立をつけてチンパンジーから見えないようにするなど、ヒトの行動をまねたり理解できたりするその種独自の特徴から、注意していることも見受けられた。</p>	
	
写真1: 「福袋」づくり	写真2: チンパンジーの主な食事

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

今回の実習ではチンパンジー、ボノボとこれまでの人生の中で最も近い距離で見ることができたが、最初は大きな鳴き声や激しいディスプレイに驚かされた。危険性を理解しながらも信頼関係を築いている飼育スタッフの皆様にも驚いた。

最も重要だと思った学びは、飼育の難しさとともに、動物のためにできることの可能性を知っておくことである。今後、野生動物の研究をしていく上で、彼らの飼育や野生での状況に対して様々な考えを持っている人たちと出会う。そのようなとき、自分の考えをしっかりと保つ上で、今回の実習で得た体験や知識が役立つかもしれない。

平田先生、三谷先生、4 日間にわたり私たちを受け入れてくださった熊本サンクチュアリの皆様に、この場を借りて御礼申し上げます。

6. その他 (特記事項など)